

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」

## マタイによる福音書 6章 33節

女子聖学院中学校・高等学校聖書科講師 長村 亮介

お早うございます。

「ひょっこりひょうたん島」をご存じの方はおられますか。子供の頃にご覧になったという方も少なくないと思います。私は今も時々気が付くと、「ひょっこりひょうたん島」のテーマソングを、口ずさんでいるときがあります。

「ひょっこりひょうたん島」 (作詞・井上ひさし)

波を ちゃぶちゃぶ  
ちゃぶちゃぶ かきわけて  
雲を すいすい  
すいすい 追い抜いて  
ひょうたん島は どこへ行く  
ぼくらを乗せて どこへ行く

丸い地球の 水平線に  
何かがきつと 待っている

苦しいことも あるだろさ  
悲しいことも あるだろさ  
だけど ぼくらは くじけない  
泣くのはいやだ 笑っちゃおう

進め

ひょっこりひょうたん島  
ひょっこりひょうたん島  
ひょっこりひょうたん島

私はこの「ひょっこりひょうたん島」を聞くと、どうしてもヴィクトール・フランクルの「何かがあなを待っている。誰かがあなを待っている」という言葉を思い出します。フランクルはユダヤ人であったため、第二次大戦中にドイツ・ナチスの強制収容所に捕らえられ、そこから奇跡的に生還した精神科医で、また心理学者でした。彼は戦後すぐに『夜と霧』という収容所での体験記を著して、それは世界的なベストセラーになります。そのフランクルが繰り返すメッセージが「何かがあなを待っている、誰かがあなを待っている」なのです。

人生には苦しみが多いものです。何故こんなに辛い思いをするのだろうか、苦しいことが続くのだろうかと考え込むことも少なくありません。フランクルはその問いに答えて、自分のこの人生の先には、自分を必要としている何か、自分を待っている誰かがいるからなのだ、と言うのです。

私たちはこの人生に何か良いことがあることを期待してしまうものです。しかしフランクルは、そうではなくて、自分という人間が、自分自身の人生に何かを期待をされているのだと言うのです。自分の人生の出来事に、どのように応えて生きるか。そこに自分の生きる本当の価値があるのだ、と言うのです。

私たちにはそれぞれに生きる意味があります。生きる意味があるということは、私たちは偶然に存在しているのではないということです。そして私たちが偶然に存在しているのなければ、私たちが存在させ生かしてくださる方がおられるということです。

イエスさまは、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」と言われます。ですから私たちが待っている何か、誰かというのは、そして私たちに生きる意味を与えて下さっているというのは、ほかの誰でもない、神さまです。

私たちには神さまに与えられた人生の使命があり、歩むべき道がある。それが私たちが今を生きている、生かされている、存在の根拠なのです。

天の父なる神さま。私たちはあなたから大切な使命をいただいています。どうかその使命を果たすべく、あなたの御言葉に従い、あなたの御国に向かう者として相応しく生きることができるよう支え導いてください。このお祈りを私たちの主、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

2021年5月27日 女子聖学院放送礼拝